

[中医臨床小説]

老中医の診察室

著者：柯^か 雪^{せつ} 帆^{はん}

訳者：石川鶴矢子

体裁：A5判 並製 320頁 定価：本体 3,000 円＋税(送料 315円)

伝統医学は難病とどう対決してきたか

—— 老中医たちのカルテから ——

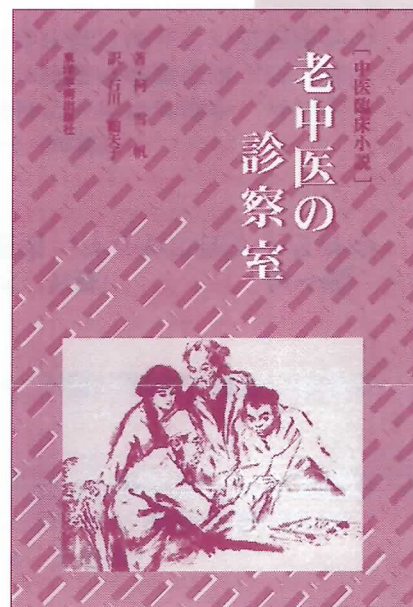
これは小説という形をとったカルテであり、医案集である。

上海中医薬大学付属曙光医院に勤務していた著者・柯雪帆教授が、老中医・金寿山に師事して臨床を学んだ実体験をもとに描き出した、中医学の臨床現場の再現である。中医学とはどんなことをするのか、老中医とはどんな人たちなのか。論文や症例報告ではみえてこない中医学の臨床現場の様子や老中医たちの人物像が生き生きと現出される。本書は中国の伝統的な文学形式である章回小説の形をとっている。全文は 30 回の短篇になっていて、それぞれに中心テーマとなる患者が置かれる。大抵は西洋医学で対処できない難病患者である。老中医を中心として、中医師、西洋医、中西医结合医、研修医らがチームを組んで患者にあたる。難病患者を前にしてどう弁証し、どう治療を行うのか、激しい議論もおこり、ドラマチックにストーリーが展開される。中医学の実際に触れたことのない人々にとっては、初めて体験する中医学の臨床風景であろう。

小説というものは不思議なものである。治療にたずさわる医師達の心の動きまでも躍動的に描き出す。それが医案の妙味をいっそう際立たせるのである。古典に出てくる短い一言が、ときにはものすごい威力を発揮する。

ほんのこの間まで、意気軒昂であった老中医たちが、今ひとりふたりとわれわれの眼前から姿を消していく。老中医とはどんな人たちであったのか。彼らの業績と人柄をかみしめることの大切さを、この本は教えてくれるだろう。

本書は、当社発行の『中医臨床』誌上で『鍾医師の診断』というシリーズ名で23回にわたって連載したが(1980～1989)、このたび新に内容を加え稿を改めて発行した。



ご注文は FAX専用フリーダイヤルで 今すぐにFAX 0120 — 727 — 060

読者から続々と

感動の手紙が寄せられています。

◇ 今までにない実話的な小説の手法を採っているので、中医の現場での実態がよくわかった。とても面白い本だ。
(東京 N・M)

◇ 臨床現場で中医師がどのようなことをしているのか、はじめて知った。中国へ行っても短期間ではわからないし、まして中医師の頭の中を覗くことはできない。小説の形を取ってあるのではじめて分かる。
(千葉 K・Y)



◇ 単なる症例報告よりもリアルで読みやすい。
(熊本 Y・M)

◇ 漢方がこのように救急患者に対処できるとは思いもよらなかった。
(大阪 I・K)

◇ 大変面白くいつきに読ませていただいた。ぜひ続きを出版してほしいです。心待ちにしています。
(群馬 T・T)

◇ たいへん面白かった。続編を要望する。
(横浜 K・T)



◇ 近代まれに見る優れた漢方書籍。歴史に残る名著になるだろう。
(神奈川 K・H)

◇ 老中医のレベルの高さを見事に表現している。実に貴重でかつ面白い臨床資料であり、日本でもこのような小説風臨床報告があればと羨ましくなる。それにしても、臨床の場で『傷寒論』など古典の条文がいとも簡単にスタッフの間でポンポンと飛び出す中国伝統医師の底力には恐れ入る。
(漢方の臨床』誌)



◆ 目次 ◆

- 1 老人性肺炎
大葉性肺炎を風寒感冒と弁証する
- 2 心不全
心不全を「心気病」と弁証する
- 3 重症呼吸不全
呼吸不全に瀉下剤を投与する意
- 4 急性腹症
急性腹症
- 5 慢性の発熱
慢性の発熱
- 6 発熱
痰火や血熱になぜ温薬を投じるのか
- 7 筋萎縮症
筋萎縮症
- 8 難治性結核
脊髄炎を補肝腎と清化濕熱で治す
- 9 胃痛
難治性結核
- 10 風邪
多様な症状を五行理論で分析
- 11 脾臓癌
陰虚か陽虚かで針麻酔効果は違
- 12 好酸性肉芽腫
つてくる
- 13 原因不明の腹痛
李東垣の陰火説を難病治療に応用
- 14 難解な腹痛が「木克土」であつ
好酸性肉芽腫
- 15 りと解決
この難病に中医学の内治法で対
- 16 めまい四例
処する
- 17 めまい六例
原因不明の腹痛
- 18 めまいの病因は多種多様
難解な腹痛が「木克土」であつ
- 19 りウマチ性心疾患
さりと解決
- 20 虚勞治療の三つのポイント
めまい四例
- 21 不整脈
めまい六例
- 22 傷寒論の薬用量をめぐって
めまいの病因は多種多様
- 23 書字痙攣と舞踏病
りウマチ性心疾患
- 24 風痰と虚実からけいれんを弁証
虚勞治療の三つのポイント
- 25 胃腸病三例
不整脈
- 26 半夏瀉心湯をベースにして胃腸
傷寒論の薬用量をめぐって
- 27 病三例を治療
書字痙攣と舞踏病
- 28 消化器疾患
風痰と虚実からけいれんを弁証
- 29 寒熱夾雜証は脾胃にだけおこる
胃腸病三例
- 30 腫瘍
消化器疾患
- 31 X線写真に映った陰影の正体は？
寒熱夾雜証は脾胃にだけおこる
- 32 上気道感染
腫瘍
- 33 黄耆がもつ扶正去邪の作用
X線写真に映った陰影の正体は？
- 34 虚弱体質
上気道感染
- 35 炙甘草湯をめぐって薬用量を考
黄耆がもつ扶正去邪の作用
- 36 起立性低血圧症
虚弱体質
- 37 陰陽失調に温薬と涼薬を併用する
炙甘草湯をめぐって薬用量を考
- 38 狭心症
起立性低血圧症
- 39 両刃の剣となる相反薬
陰陽失調に温薬と涼薬を併用する
- 40 心筋炎と狭心症
狭心症
- 41 胸は痛むのか詰まるのか
両刃の剣となる相反薬
- 42 心筋炎
心筋炎と狭心症
- 43 時間を経過してから発病する伏
胸は痛むのか詰まるのか
- 44 気温病
時間を経過してから発病する伏
- 45 心疾患の妊婦
気温病
- 46 赤ちゃん、無事に誕生
心疾患の妊婦
- 47 喘息と気管支炎
赤ちゃん、無事に誕生
- 48 標治と本治、いずれを優先するか
喘息と気管支炎
- 49 めまい
標治と本治、いずれを優先するか
- 50 西医薬を併用したときの注意点
めまい